

研修プログラム統括責任者からのご報告

産業医科大学プログラム

産業医科大学 産業生態科学研究所 所長

もりもと やすお
森本 泰夫



社会医学系専門医を養成するための産業医科大学プログラムが 2017 年度からスタートしました。本プログラムの研修体制としては、産業医科大学を基幹施設として、研究連携施設に企業や企業外労働衛生機関、福岡県・北九州市の保健所、厚生労働省検疫所等から構成されております。また、研修プログラムを適切に運用するための研究プログラム管理委員会が設置されており、本学、研究連携施設の社会医学系指導医によって運用されております。研修期間は3年間を基本としており、オン・ザ・ジョブ・トレーニング、課題解決型学習、事例検討のためのカンファレンス、などを通して専門的な知識の習得をめざしています。研修内容としては、大きく基本プログラム、現場での学習、研究活動に分かれております。

**図1 本学卒業生（研究所・センター）
専門産業医コースⅠ修練医**



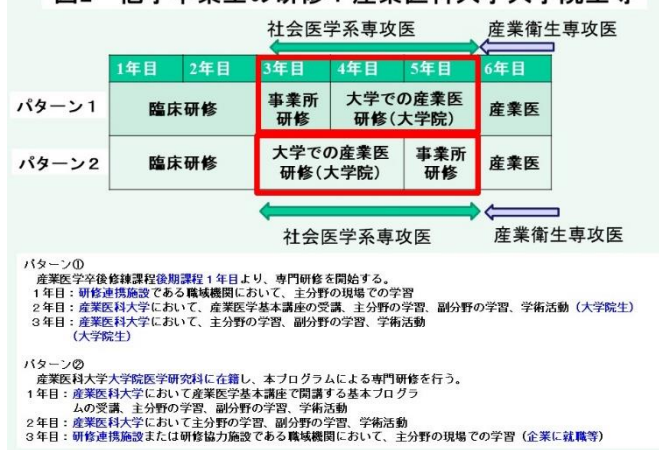
パターン①
産業医学卒後修練課程後期課程 1 年目より、専門研修を開始する。
1 年目：研修連携施設である職域機関において、主分野の現場での学習
2 年目：産業医科大学において、産業医学基本講座の受講、主分野の学習、副分野の学習、学術活動（大学院生）
3 年目：産業医科大学において、主分野の学習、副分野の学習、学術活動（大学院生）

パターン②
産業医学卒後修練課程後期課程 2 年目より、専門研修を開始する。
1 年目：産業医科大学において、産業医学基本講座の受講、主分野の学習、副分野の学習、学術活動
2 年目：産業医科大学において、主分野の学習、副分野の学習、学術活動
3 年目：研修連携施設または研修協力施設である職域機関において、主分野の現場での学習（企業に就職等）

基本プログラムに関しては、平成 29 年度から当大学で実施している産業医学基本講座の科目に、基本プログラムに対応する科目がすべて含まれており、基本講座の

修了にて、基本プログラム修了とみなしております。この基本講座は、昨年から本学開催以外に東京でも開催しており、本学開催分は4月から5月の約2か月間（月曜日から土曜日の全日）、東京開催では6月から10月の約5か月間（週2回の夜間と隔週土曜日）の研修期間となっております。

図2 他学卒業生の研修：産業医科大学大学院生等



現場の実習では、本学の主分野は、産業・環境となるため、副分野は行政・地域と医療になります。産業・環境では、主に本学では、各研究室で実施される産業医学研究や嘱託産業医活動、また企業や企業外労働衛生機関などの職域機関での産業医活動を通して研究課題や現場の実践的課題の解決方法を経験し、専門医に必要な技能の習得を目指します。行政・地域に関しては、福岡県・北九州市保健所に、年に数日訪問し、保健所が所管する業務（感染症・食中毒の対策、疾病予防、母子保健、精神保健など）に対して各種会議への参加、調査・研究への参加、地域の施設見学、地域の保健医療関連データの

解析・まとめ、各種業務に関連するプレゼンテーションなどの研修を行います。厚生労働省検疫所では、国内に常在しない感染症の病原体に対する検疫業務、健康危機管理、動物や食品の輸入管理業務などを研修します。また、医療においても、本学大学病院の病院管理を目的として、医療安全管理委員会、病院感染病医委員会へのオブザーバー参加を必須として、診療録管理委員会、医長連絡協議会、感染制御部定例会議、感染防止対策加算に基づく地域連携カンファレンスなどへの参加、現場・施設の全貌の視察、医療関連データの解析、実践関連テーマに関する調査・まとめ、関連するプレゼンテーションとそれに関する質疑応答を行います。

学術活動においては、研修期間中に関連学会の学術大会等での発表または論文発表1件以上を行うことを実践させております。本プログラムでは、日本産業衛生学会総会において口頭・ポスター発表、論文発表などを目指します。本学2年間の研修期間中に与えられた（または、希望した）研究テーマに対して、解決するための手法を学び、実践・検証し、最終的に結論を導き出すプロ

セスを習得し、抄読会やオリオンゼミ等のカンファレンスなどに参加して意見交換などを行い、学術的成果物として完成度を高め、発表を行います。

これらの研修を、どのようにして受講するか、修練のパターン別、すなわち、本学卒業生（研究所・センター）、他大学卒業生、連携施設在職者の場合に分けております（図1、2、3）。本大学のプログラムにご興味がある方は、当方までご連絡をお願いします。

図3 連携施設在職者


研修連携施設である職場機関に所属し、本プログラムによる専門研修を行う。

- 1年目：産業医学基本講座の受講または産業医学基本講座で開講する基本プログラムの受講、研修連携施設または研修協力施設である職場機関において、主分野の現場での学習
- 2年目：産業医学基本講座の受講または産業医学基本講座で開講する基本プログラムの受講、主分野の学習、副分野の学習、学術活動
- 3年目：主分野の学習、副分野の学習、学術活動

参画学会の年次大会開催のご報告

第91回日本産業衛生学会 開催報告 悠(はるか)なる産業保健 一人と科学技術の連鎖—

第91回日本産業衛生学会企画運営委員長
 熊本大学大学院 生命科学研究部 公衆衛生学分野

かとう たかひこ
 加藤 貴彦



2018年5月16日（水）から19日（土）の4日間、第91回日本産業衛生学会が、九州地方会を主管として熊本市で開催された。熊本市での開催は、1990年の熊本大学三浦創教授以来28年ぶりである。会場は、市民会館シアーズホーム夢ホール、熊本市国際交流会館、くまもと県民交流館パレア/鶴屋ホールの3か所2地域で開催された。

3会場は熊本城近くの中心市街地にあり、2つの地域は徒歩15分ほどの距離にある。本学会では参加者に移動の際に使っていただこうと、事前登録者には市電回数券をサービスする計画をたてた。この市電回数券の配布が功をそうしたのだろうか、事前登録者は1,700人を超え、運営事務局としては大変ありがたい結果となった。

プログラムとして、一般口演540題、自由集会は49

の申し込みがあり、特別企画として、海外招待講演、メインシンポジウム3題、シンポジウム14題、教育講演10題、フォーラム5題と多様な講演と発表が行われた。また、今回、川上理事長の発案により、日本睡眠学会、日本動脈硬化学会、日本糖尿病学会など他学会との共同シンポジウムが実施された。また、社会医学系専門医制度に関連する内容として、①社会医学系専門医制度基本プログラム（環境・産業保健）②専門医制度委員会③専門医制度委員会説明会・専攻医試験が実施された。その他、19のランチョンセミナー、82の企業・書籍展示等があり、最終日の夕刻まで各会場とも参加者があふれ、参加者は3,200人を超えた（写真1）。

本学会のメインテーマは「悠（はるか）なる産業保健—人と科学技術の連鎖—」とした。人類は、生活のなかで様々な生産活動を行ってきた。昨今、急速に進歩しつつある人工知能（Artificial Intelligence, AI）やロボットによる仕事の代替化は、労働移動や失業を引き起こす可能性がある一方、障害を抱えた人々に対しては、公平に働く機会への扉を開いてくれる可能性を秘めて

いる。本学会では、人と科学技術の連鎖について、その軌跡と未来について活発な議論を深めることをメインテーマとした。

今回の学会では、一般演題に最新の優れた研究を発表していただくことを目的として、多くの関係者へ協力をお願いしてきた。学会は学問を追及することが第一義であり、一般演題こそが学会の命であると意識してきたからである。この願いに応えるように、地方開催にもかかわらず、口演、ポスターをあわせて、過去最高に近い540題の応募があった。また、35歳以下の若手優秀演題賞を募集し、懇親会の席上で選ばれた15名の表彰式を行った。賞の選定には、発表者自身の実力を評価するために、抄録だけでなく口演内容・態度を含めた総合的な評価をもとに座長に選考をお願いした。産業衛生学会の次世代を担う人材であり、大いに鼓舞していきたいと思う。

一般演題のプログラム編成のなかで感じたことは、近年、多数を占めていたメンタルヘルスや健康支援に加え、化学物質に関する話題も増えてきたことが特徴であった。我が国では、すでに解決されたと思っていた職業が

んであるが、近年、胆管がんや膀胱がんなどの事例があいついで報告され、会員は再研究の必要性を感じたのかもしれない。

熊本地震から2年が過ぎたが、今なお、町中には爪痕が残っており、我々県民は復旧から復興に向け頑張っている。参加された全国の学会員の皆さまにはもちろんのこと、学会開催にご支援・ご協力をいただいた熊本国際観光コンベンション協会、そして運営事務局をお願いした株式会社日本旅行・中四国コンベンショングループの皆さまに、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。



今月のお知らせ

認定プログラム

山形県社会医学系専門医研修プログラムが 2018 年 6 月 24 日付で認定されました。

指導医講習会

2018 年 10 月

学 会 名 日本職業・災害医学会
 タイトル 第 66 回日本職業・災害医学会学術大会
 教育講演 「社会医学系専門医・指導医制度について」
 日 時 2018 年 10 月 20 日（土）9:30～10:30
 場 所 和歌山：ホテルグランヴィア和歌山
 U R L <http://www2.convention.co.jp/jsomt66/>
 備 考 指導医講習会とみなします。

基本プログラムEラーニング

一般社団法人 社会医学系専門医協会と一般社団法人 日本公衆衛生学会が会員となって、「社会医学系 e ラーニング・コンソーシアム」を発足させる準備が、ほぼ整いつつあります。

社会医学系専門医協会の専攻医、専門医および指導医、加えて日本公衆衛生学会の認定専門家の皆様に、アクセス権付与をする準備を早急に整えて行きますので、今、しばらくお待ちください。

委員の選任（交代）

社会医学系専門医協会としての業務年度は 7 月から翌年 6 月となっており、協会としては新年度に入りました。多くの自治体や大学・研究所等では、暦年度として 4 月から人事なども変更となっているものと存じます。それらの背景を受けて、社会医学系専門医協会の委員の退任に伴う新委員の選任があり、去る 6 月 24 日に行われました社会医学系専門医協会の理事会で承認されましたので、ご報告いたします。

企画調整委員会	退任：倉橋 俊至 委員	新任：内田勝彦 委員（全国保健所長会）
専門医・指導医認定委員会	退任：近藤 克幸 委員	新任：大原 信 委員（日本医療情報学会）
	退任：大西 洋英 委員	新任：佐藤 譲 委員（日本職業・災害医学会）

また業務執行理事会が必要と認め、順天堂大学大学院医学系研究科 公衆衛生学講座 和田 裕雄 先生に幹事をお務め頂くことになりました。

シリーズ 国際労働衛生会議（ICOH）2018 @ Dublin 報告

「産業医学専門家の祭典、ICOH 2018」

ICOH 理事
産業医科大学産業保健管理学

ほりえ せいち
堀江 正知



産業医学の専門医は医師全体の 0.3% 未満ですが、先進国を中心に世界中にいます。就業年代の多くの人にとって活動時間を最も割いているのが仕事であり、健康に与える影響が最も大きい要因も仕事という人は多いと思われます。仕事の健康影響は多彩な視点から観察されていて、その解決策は工学、心理学、法学といった周辺科学に広がっています。



(National Secretary) が指名されていて、日本は労働安全衛生研究所の吉川徹先生です。現会長は元 ILO の Takala 先生で、アスベストをはじめとする職業がんの撲滅に取り組んでいます。



産業医学の分野には、世界各国の専門家が参加する国際学会があります。1906 年にイタリアで発足した International Commission on Occupational Health (ICOH、国際産業保健学会) です。温熱、振動騒音、ナノ粒子、中毒、アレルギー、筋骨格系障害、夜勤交代制、心理社会的要因、農薬、鉱業、建設業、化学工業、保健医療業、小規模事業場、疫学、女性、加齢、看護、失業、神経中毒、皮膚疾患、循環器疾患、救急対応といった興味深い課題別に 37 の科学分科会 (Scientific Committee) が世界中で分科会を開催しているほか、68 カ国には国内事務局長



総会は 3 年に 1 度開催されますが、総会に参加した会員が 6 年後の次々回開催地を投票して選びます。2015 年にカリブ海リゾート Cancun で行われた総会で、2018 年の開催地が Dublin に決まっています、ちょうどゴールデンウィーク中に開催されました。参



特別セッション

加者総数は 2,236 人で、そのうち会員は半数以下の 966 人でした。世界的研究者による plenary が 11 講演、semi-plenary が 32 講演、そして課題別の special session が 489 講演も行われ、そのほかに多くのポスター発表があり、多くの学びや気づきがありました。総会専用のアプリが配信されていて、



科学分科会活動

シンポジウムなどではこのアプリを使って賛否を投票したり演者に質問したりする最新の企画も人気でした。アイルランドは日本からの直行便がなく、私にとっては ICOSH 総会でもなければ一生訪ねる機会がなかった国ですが、思いのほか温暖で、牧草地の丘陵が広がり、牛肉やジャガイモの料理が美味しく、また、ケルト系 (Celtic) の伝統的な陽気な人懐っこく機敏に動く人々の姿が心地よく、楽しい思い出ができました。次回の 2021 年は豪州の

Melbourne で、次々回の 2024 年はモロッコの Marrakesh での開催が決まり、いずれの訪問地も大いに期待しているところです。

近年、日本人の ICOSH への貢献はめざましく、2009～15 年に労働科学研究所の小木和孝先生が会長を務められたことをはじめ、過去 30 年以上にわたり日本から理事が選出されています。昨年末の正会員数は 1,976 人で、そのうち日本は 118 人 (6.0%) を占め、国別ではアメリカ合衆国より 1 人少ないだけの第 2 位に付けています。今回の総会には日本から 122 人が参加し、国別では第 3 位でした。また、京都工場保健会の池田正之先生が長年のご功績により名誉会員に選出されました。私は、理事として 2 期目に選出していただき、また、温熱科学分科会の委員長にもなりました。2019 年 10 月 27・28 日 (日・月) には、北九州国際会議場で ICOSH 科学分科会を開催する予定で準備を始めたところです。

産業医学は専門分野として世界中できちんと認識されていて、先進各国に専門医を養成する制度があります。Occupational hygienist など医師以外の専門家も多く、ネットワークづくりがとても重要な分野です。ICOSH は、若手優遇策を推進していて 34 歳未満には会費の大幅割引制度があります。皆様も、ぜひ、ICOSH の会員となって、世界中の仲間との交流を楽しんでいただければ幸いです。



次々回開催地の投票風景